

# HIYOSHI CAMPUS CALENDAR

MAY 2006

2006.5.1. 発行 第98号

慶應義塾大学(日吉)HIYOSHI CAMPUS CALENDAR 編集部(日吉キャンパス事務センター運営サービス内)編集・発行

## 能「隅田川」

入学歓迎行事でも恒例となった坂井音重師による能の公演、今年の演目は「隅田川」です。この演目の主題は、都人にとっての隅田川の遙かさと、それをも厭わない母と子の絆の強さです。大の日本びいきで知られた故ジョン・レノンがこの「隅田川」を見て、静かに涙を流し、妻のヨーコが彼の涙をそっと拭いたというエピソードもあります。能を鑑賞するポイントは、ただ演じられているさまを見るだけでなく、自分で積極的にそこからイメージを膨らませていくこと。これを機会に日本の伝統芸能の世界に足を踏み入れてみませんか？

日時:2006年5月16日(火) 17:00 開場  
17:30 挨拶・解説  
18:00 開演

場所:来往舎 イベントテラス

演目:能「隅田川」 シテ 坂井音重

主催:日吉行事企画委員会(HAPP)  
慶應観世会

後援:慶應観世後援会

入場無料



(3面につづく)

# 日吉キャンパス情報

## 慶應義塾大学新入生歓迎行事

### 舞踏公演 『記憶の海』

日時  
2006年5月10日(水) 18:00~19:30

会場  
来往舎イベントテラス

入場無料 (事前のお申し込みは不要です)  
\* 未就学児のご入場はご遠慮ください。  
\* プログラムは予告なく変更される場合がございます。

出演  
金沢舞踏館  
山本 萌、白柳ケイ、呂 師、鈴木みんみ、和歌、木虎和生、  
西橋由美子

主催  
慶應義塾大学アート・センター  
慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)

問い合わせ  
email: [art-c-butoh@adst.keio.ac.jp](mailto:art-c-butoh@adst.keio.ac.jp)

## 著名塾員による講演会

活躍する塾員の千住明氏講演会を開催

《講演者》千住 明  
《日時》 2006年5月30日(火) 16:30~18:00  
《場所》 来往舎シンポジウムスペース  
《演題》 未定

主催：慶應義塾大学教養研究センター  
日吉行事企画委員会 (HAPP)

### プロフィール

千住 明 (せんじゅ あきら Akira Senju) 作曲家  
'60年東京生まれ。幼稚舎から慶應義塾に学び、慶應義塾大学工学部を経て、東京芸術大学作曲科卒業。同大学院を首席修了。修了作品「EDEN」は史上8人目の東京芸大買い上げ作品。

ドラマ「ほんまもん」、「砂の器」、アニメ「機動戦士Vガンダム」、「雪の女王」、NHK「日本 映像の20世紀」、CM「コスモ石油」、映画「黄泉がえり」等多数の音楽も担当。

作曲家、編曲家、プロデューサーとしてポップスから純音楽まで活動は多岐にわたる。第20回、第22回、第27回日本アカデミー賞優秀音楽賞等受賞多数。

## 2006東京六大学野球

### 【春季リーグ戦】

5/13 (土) 明大 - 慶大  
5/14 (日) 慶大 - 明大  
5/27 (土) 早大 - 慶大  
5/28 (日) 慶大 - 早大

申し込み・問い合わせ：  
慶早戦 - 慶早戦支援委員会  
(TEL:045 564 3309)  
慶早戦以外 - 神宮テレフォンサービス  
(TEL:03 3236 8000)

URL : <http://www.big6.gr.jp/index.html>

### <野球部員のコメント>

練習では厳しい雰囲気の中、日吉=神宮を意識して一球一球を大事にプレーしています。相場新監督の下、六大学優勝目指し「全員野球」の精神で、リーグ戦に臨みますので、応援の程、よろしく願い申し上げます。

## HAPP公募企画募集要綱

教養研究センター日吉行事企画委員会(HAPP)では、塾大学生または教職員が企画・実行するイベントに対して、補助(1企画25万円まで)を企画主催者として行います。補助を受ける企画は、キャンパス内だけでなく、キャンパス外コミュニティとの交流が視野に入っていて、その内容には大学の特性が生かされているべきであると考えます。

応募資格者 : 塾大学生および教職員  
補助金額 : 1件につき25万円まで  
募集件数 : 5件程度  
応募期間 : 2006年4月17日(月)~5月31日(水)  
申し込み : 学生総合センター窓口、運営サービス総務担当、または研究室事務室(来往舎1階)

最終結果発表 : 2006年7月14日(金)

問い合わせ : 経済学部 石井 明(来往舎研究室)内線 : 33342

採択された企画は、2006年9月末から2006年12月末までの間に、日吉キャンパス内の施設(塾生会館を除く)を利用して実行することとなります。

6月初旬に、5月31日(水)までに申し込みがあった企画を対象に説明会を開催します。その後正式な企画書を提出していただき、これが最終審査の対象となります。

URL : <http://www.hc.keio.ac.jp/happ/index.html>

## 「隅田川」あらすじ

幕の内から笛の音が静かに流れはじめ、舞台は遙かな時を辿り、まだ都が京都にあった時代の遠い昔の物語の世界へと入ってゆく。

その昔、東国（現在の東京あたり）は都人にとっては辺境の地。そこを流れる隅田川を渡れば、向こう岸は地の果てとも思われているような、そんな所であった。

都からの旅人は皆、ここまで来ると遙かな旅路を思い、都に残してきた恋しい人の面影を浮かべ、たまらなく寂寥の念にとらわれたという。

春まだ浅い、夕暮れ時の隅田川の船着場。渡し守が、都からの旅人とともに、面白く舞い狂うという一人の物狂を待っている。しばらくすると、そこに小笹を肩に、黒い塗り笠を深々とかぶり、質素な旅衣に身を包んだ女性が一人やって来る。

その女性とは、たった一人の大切な我が子を人商人に連れ去られた母親であった。東国へ下っていったという風の便りを信じ、無我夢中で我が子の跡を捜し求め、都からはるばるこの地まで彷徨い歩いているのだ、と静かに語り始める物狂。その面立ちは、人生の悲哀をすべて刻んでいるようにも見える。

「親が我が子を思う心は、夜の深い闇のように人を迷わせる。遠く千里の道を駆り立てるのも親心というもの。もとより親と子の契りは、かりそめの儂いもので、今生限りのものだというのに、その中でさえも一緒にいることができず、離れ離れになっている」と、静かに一歩ずつ歩みながら、自らの境遇をぼつりぼつりと語る物狂の心に、地の果ても言われている隅田川の荒涼とした風景が重なっていく。

船に乗ろうとする女に、渡し守は「何か面白いことをしなければ船に乗せない」と意地の悪いことを言うが、女は伊勢物語の一節を引き、「隅田川の渡し守ならば、『日も暮れた。早く乗れ』というところなのに」と、逆に渡し守をやり込め、さらに伊勢物語の主人公・在原業平が、この隅田川で都の妻を思っていたように、今、自分は子を思う気持ちでいっぱいなのだ」と切々と訴え、船に乗せてくれるよう渡し守に必死に懇願する。その思い詰めた様子に、渡し守は女を船に乗せることにする。

一同が船に揺られていると、対岸の柳のもとに大勢の人々が集まっているのが見える。これから大念仏会が開かれるということで、それにまつわる哀れな物語を渡し守が語り始める。

それは、一年前のちょうど今日、都から人商人に連れられて来たまだ幼い男の子が、旅の病に臥して死んでしまった。臨終のとき、「自分の墓は、都からの旅人であればその影さえも懐かしく思うので、その姿が見える道の傍らに、柳の木を目じるしとして作って欲しい」と頼み、念仏を四、五遍唱えて死んでいった、というものであった。

渡し守の話が進むにつれて、それまで船中より川面をじっと見つめているだけだった物狂は、ハッと面を上げる。実は、そのおさな子こそ、物狂の女が探し求めていた我が子だったのである。渡し守に抱き起こされ、よろよろと力なく墓の前まで来た母親は、嗚咽の涙にくれる。「どうか、いまひと目、母は、墓の土を掘り起こそうとするが、甲斐無きこと。もうもうと立ち込める土煙の中で、世の無常が彼女を包んでいく。

「母親の念仏こそが、死者にとっては一番の喜びだ」と渡し守に慰められ、気を取り直し、鉦を打ちつつ念仏を唱えはじめる母。夜も更け、冴え冴えと月が照り輝くなか、人々の念仏の声に、川面を冷たくわたる風の音や、都鳥の鳴き声が重なり、空に澄み渡ってゆく。

しかし、それだけではない。何かの声が聞こえる。母親一人が念仏を唱えてみると、それに合わせるように、墓の中からまだ幼い男の子の念仏を唱える声のはっきりと聞こえてくる。そして母親の目には、男の子が墓の傍らに立っているのが、幻のように微かに見えてくる。

「あれは私の子ども」「おかあさん、ですね」、二人は互いに抱き合おうとするが、広げられた母の腕を息子はすり抜けていく。母は尚も必死でその影を追いかける。やがて、東の空が段々と白んでいく。浮かび上がってきたのは、墓のまわりの、風になびく草ばかり。すべてのことがかりそめの世。母親の思いの至った心境が、荒涼とした武蔵野の風景を通して、深い余韻とともに観る者の心に静かに染み入る。舞台から母親が退場した後も、野末を渡る風の澄んだ音がいつまでも聞こえてくるようである。

この能の主題は、都人にとっての隅田川の遙かさ、それをも厭わない母と子の絆の強さである。この作品ではこのテーマを、たとえば母が、黒い塗り笠の下からかすかに仰ぎ見る型や、自分が歩いてきた千里の道のりの遠さをわずかに、三歩踏みしめることで表現している。

無駄なものを削ぎ落とし、凝縮した所作で、伝えたいことのすべてを表現する能の真髓を、そこにみることができる。

# 2006

# 慶應義塾大学 留学フェア

日吉キャンパス 来往舎

<http://www.ic.keio.ac.jp/jp/events/event060517.html>

2006年5月17日(水)、慶應義塾大学で初となる留学フェアが開催されます。塾生の海外留学を支援・促進することを目的とし、各国の参加機関や参加協定校によるブース設置、各種留学説明会等を実施します。留学経験者の塾生や、各国からの留学生、参加機関の担当者と直接話をするすることができます。交換留学をはじめとする「留学」に興味のある方は、是非お立ち寄り下さい。

日時：2006年5月17日(水) 12:00～19:00  
会場：日吉キャンパス 来往舎  
主催：慶應義塾大学 国際センター

イベント内容	
ギャラリー	個別ブース(国・エリア別)
イベントテラス	塾派遣交換留学説明会、アメリカ留学説明会、フランス留学説明会 等
シンポジウムスペース	イギリス説明会、TOEFL 説明会 等
大会議室	留学経験者懇談

## 参加団体・協定校

日米教育委員会、CIEE (国際教育交換協議会)、ブリティッシュ・カウンシル、オーストラリア大使館、エデュ・フランス日本支局、ドイツ学術交流会 (DAAD)、イタリア文化会館、カナダ大使館、日中文化交流センター、東京韓国総合教育院、ニュージーランド大使館、文化組、スイス大使館、駐日ノルウェー王国大使館、台北駐日経済文化代表處 他  
Western Michigan University(米国)、University of California Study Center(米国)、北京大学(中国) 他